

やんツー

## 「Back to the Future」

2023.1.22(sun) — 3.19(sun)



この度、rin art association では、やんツーによる個展「Back to the Future」を開催します。

やんツーはこれまでも、最新テクノロジーを用いた彫刻による空間上のパフォーマンスを通じて、デジタル社会における統治システムの在り方を検証してきました。美術作品を鑑賞するセグウェイや機械学習プログラムを導入したドローイングマシーンなど、作品に現れる自律的な装置は、思想と美術の交差点を行き交い、人間の身体性や表現の主体性を問いかけています。

「Back to the Future」と題された本展では、洗練されたラグジュアリーカーという象徴のもと、人々が抱くさまざまな野心や欲望の裏側に迫ります。理想へ向かって進む直線的で発展的な歴史観を疑う本作が描くのは、私たちが過去の出来事として忘れ去ろうとする悲劇が再燃する歴史の平行な性質です。加速的なスピードを感じさせる車体のスピーカーからは、何気ない親子の会話が聞こえてきます。

水素を燃料に発電するトヨタの燃料電池自動車には「MIRAI」という名前が付けられている。脱炭素社会を実現する未来への一助に、という期待が込められているのだろう。「ATAMI ART GRANT 2022」にてその車の電気を使って作品を発表するという話が決まった時、世の中はちょうどウクライナ戦争が勃発したタイミングで、私はその頃 1909 年にイタリアで起こった美術運動「未来派」について調べていた。未来派は産業革命以降に普及した機械の革新性や、それに伴う速度の美を礼賛し、究極的にはファシズムに傾倒し戦争を称揚している。

テクノロジーには「進歩」とか「未来」というイメージが付きもので、それは一見ポジティブに感じるが、歴史をふり返ってみてもその裏側には概ね暴力や倫理観の欠如した思想が隠れていて、最終的にはそれが露わになる。最近の加速主義然り。そこで「Back to the Future」（未来に戻る）という捻れた言葉をキーワードに、「未来」の意味を改めて捉え直してみたいと思い制作した。テクノロジー由来の進歩主義観によって収縮してしまいそうな未来を一元的なものに陥らせず、より多角的な可能性のあるものへ開くための思弁として。

やんツー

やんツー (yang02)

1984 年神奈川県生まれ。

2009 年多摩美術大学大学院デザイン専攻情報デザイン研究領域修了。

主な個展に「untitled 2」2013 年 中村キース・ヘリング美術館、「\_prayground」2019 年 rin art association、主なグループ展に、「DOMANI・明日展」2018 年 国立新美術館、「生の軌跡」2021-2022 年 アーツ前橋、「Drawing -Plurality」2022 年 PARCO MUSEUM TOKYO、「六本木クロッシング 2022：未来オーライ！」2022-2023 年 森美術館など。

[水-日] 11:00 - 19:00 [月-火] 休廊

contact

rin art association

370-0044 群馬県高崎市岩押町 5-24

t:0273-87-0195 e:contact@rinartassociation w:http://rinartassociation.com